

水船桂太郎 テノールリサイタル

ピアノ：青島広志

1部

陽はすでにガンジス川から……………スカルラッティ
教会のアリア……………ストラデッラ
亡命者……………ロッシーニ
お行き 幸せな薔薇よ……………ベッリーニ
海辺にわが家を……………ドニゼッティ
薔薇……………トスティ
限りなく優雅な絵姿……………ドナウディ
郷愁……………チマーラ
朝の歌……………レオンカヴァッロ

2部

オンブラ マイ フ (ラルゴ)……………ヘンデル
「トスカ」より 星は光りぬ……………ブッチーニ
「椿姫」より 乾杯の歌……………ヴェルディ
帰れソレントへ……………デ・クルティス
忘れな草……………デ・クルティス
泣かないお前……………デ・クルティス
マリウ 愛の言葉を……………ビクシオ
グラナダ……………ララ

共演：福村友希子(Hn) 池野智香子(Cl) 中村泉(Fl) 岩井美貴(P)

浜松出身の
演奏家シリーズ XI

四季²⁰⁰⁴コンサート

2004年7月16日(金) 6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

プロフィール

水船桂太郎 (テノール)

浜松市立中部中学校、信愛学園(現学芸)高等学校音楽科、国立音楽大学声楽科卒業。古屋豊、莊智世恵各氏に師事。第38回日伊声楽コンクール入選。バリトンとして「魔笛」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」などモーツァルトを中心にした作品や日本オペラに数多く出演。後にテノール転向を機にイタリア・ボローニャに留学し、トリノ、ミラノ、フィレンツェなど各地でコンサートに出演。この間にW. マッテウツ氏、G. チャンネッラ氏、ヨーコ・タケダ氏、中島基晴氏らに学び、スウェーデンで行われたオペラ・アカデミーオーディションに合格、優秀賞を受賞して記念コンサートにも出演した。帰国後は「椿姫」「カルメン」「ラ・ボエーム」などのオペラ、「メサイア」「カルミナ・ブラーナ」「レクイエム」(モーツァルト、ベルリオーズ)などのコンサートのソロを務める。このほか日生劇場「シリーズ音楽探検隊」(青島広志氏と共演)やTV朝日「新・題名のない音楽会」などにも出演。2003年5月には「二期会週間—花形テノール7人の若侍」と銘打ったコンサートに出演。又9月には「蝶々夫人」のピンカートンで二期会オペラにデビュー。今後の活躍が注目される若手テノールである。二期会会員。

青島広志 (ピアノ)

1955年東京生まれ。作曲を中心にピアノ、指揮、解説、出演と幅広く活躍。東京芸術大学作曲科大学院修士課程を修了。修了作品のオペラ「黄金の国」を始めとして、合唱曲「マザーグースの歌」ミュージカル「11匹のネコ」などが著名。水船桂太郎の初期における発見者の一人である。現在、東京芸術大学、都留文科大学、都立芸術高校講師、東京室内歌劇場会員、今春より「新・題名のない音楽会」顧問を務めている。

水船桂太郎
テノールリサイタル



KEITARO MIZUFUNE
TENOR RECITAL

●スカラッティ(1660~1725)／陽はすでにガンジス川から

イタリアのオペラ作曲家で、18世紀音楽様式を確立したことでも知られる。この曲はイタリア古典歌曲、歌劇《愛のまこと》で、「陽光は、はやガンジスから明るく輝きを増し」と歌われる。

●ストラデッラ(1644~1682)／教会のアリア

イタリアの作曲家で、声楽を中心にオペラなどを残した。この作品もイタリア古典歌曲で、「主よ、悩める私に憐れみを。私の祈りが届くなら厳しく私を罰さないでください」と歌う。

●ロッシーニ(1792~1868)／亡命者

19世紀イタリアの代表的作曲家。《セビリヤの理髪師》等数々のオペラや室内楽曲、声楽曲などを残した。「リグーリア海がいつもその足元を浸しているイタリアの街、そこが私の故郷なのだ」と歌う。

●ベッリーニ(1801~1835)／お行き 幸せな薔薇よ

ロッシーニ、ドニゼッティと並んで19世紀イタリアを代表するオペラ作曲家。歌劇《清教徒》等がある。「お行き、ニーチェの胸でやすらぐために、私たち二人には同じ運命が待っている」と歌う。

●ドニゼッティ(1797~1848)／海辺にわが家を

《愛の妙薬》などで親しまれているドニゼッティの歌曲集《インフラシャータの秋の暮れ》の1曲で、歌曲中最も知られている。「海の近くに、孔雀の羽で飾った家を建てたい」と歌う。

●トスティ(1846~1916)／薔薇

イタリアの人気作曲家、後年イギリス王室の音楽教師を務め、貴族にも叙せられた。「トスティ歌曲集」は世界中で親しまれている。「憐れな薔薇の花、君はあの悲しい花を誰にももらったのか」という歌詞は、ロッコ・E・バリアーラ。

●ドナウディ(1879~1925)／限りなく優雅な絵姿

イタリアの作曲家で、声楽曲、室内楽曲等を残した。「昔愛した女性の限りなく優雅な絵姿、今でも話しかけている。あの素晴らしい愛の日々のように。懐かしい思い出が蘇る」という《古典様式によるアリア集》中の曲。

●チマーラ(1887~1967)／郷愁

イタリアの指揮者、ピアニスト、作曲家。レスピーギに作曲を学び、主に指揮者として活躍した。この曲は《5つの抒情詩第1集》の第2曲で詩はハイネ。「夕べに森へ行くと、疲れた私のそばにお前の繊細な姿が見える」と歌う。

●レオンカヴァッロ(1858~1919)／朝の歌

《カヴァレリア・ルスティカーナ》に並ぶヴェリズモ(現実主義)オペラの代表作、《道化師》で一躍名を知られたイタリアの作曲家。「白い衣装に包まれた夜明けが、太陽に向かって扉を開けた」と歌う。

●ヘンデル(1685~1759)／オンブラ マイ フ(ラルゴ)

《ラルゴ》としてよく親しまれている曲だが、オペラ《クセルクセス》の第1幕冒頭におけるクセルクセス王のアリアである。「この木陰ほど、美しく気持ちよいところは他にない」と歌う。

●ブッチーニ(1858~1924)／「トスカ」より 星は光りぬ

ブッチーニはヴェルディと並び称されるイタリア・オペラ作曲家の双璧。古今のオペラ名アリアのひとつで、《トスカ》第3幕、画家カヴァラドッシの処刑での辞世の詩。「星は輝いていた。けれども私の愛の夢はもはや永遠に消えてしまった」

●ヴェルディ(1813~1901)／「椿姫」より 乾杯の歌

オペラを代表する名作《椿姫》の第1幕で歌われるアリア。純朴な青年アルフレードが美しいヴィオレッタに目を奪われて即興で歌う。「酒を酌もう、美しい人が花を添える喜びの杯に、愛は杯とともに熱い口づけを受けよう」

●デ・クルティス(1875~1937)／帰れソレントへ 忘れな草 泣かないお前

クルティスはイタリアのピアニスト、作曲家。名歌手ジューリのピアノ伴奏者としても知られる。兄である詩人ジャンパティスタと多くの名カンツォーネを作曲した。《帰れソレントへ》は1904年、地元のホテルから頼まれたCMソング。世界的な大ヒットとなり、寒村だったソレントは一躍有数のリゾート地となった。プレスリーがカバーしたことでも知られる。「帰れよ、我を捨てな。帰れソレントへ、帰れよ」《忘れな草》は名テノール、ジューリが1935年に主演した映画「忘れな草」の主題歌。1959年「春の風」でも使用された。ドメニコ・フルノ作詞。「ツバメは飛び去った。甘い恋を探しに、さよならも言わないで」《泣かないお前》は1915年に詩人リベロ・ボヴィオが作詞、名歌手カルーゾによって歌われたセレナーデ。「今夜山々はなんて美しいだろう。あなたはどこに、この瞳であなたをもう一度見つめたい」

●ビクシオ(1896~1978)／マリウ 愛の言葉を

ビクシオは、「マンマ」、「愛のカンツォーネ」でも知られた人気作曲家。この曲は1932年カメリーニ監督による映画「悪漢たち」の主題歌。主演のヴィットリオ・デ・シーカが「マリウ、今夜の君は何と美しいだろう」と歌う。

●ララ(1900~1970)／グラナダ

メキシコの作曲家ララは、この《グラナダ》を1932年に作曲したが、映画「ピコズ・ユー・アー・マイン」に取り上げられてから世界的に広まった。「夢誘う地よ、聞こえてくるあの歌、君こそ命を賭けた恋」と情熱的に歌う。